



新型コロナウイルスの実態を知ろう

副代表理事 箕輪 元三

新型コロナウイルスとは何なんだろう、との思いからインターネットで色々を探していたら、「大学生とつくる就活応援ニュースゼミ」という記事でコロナについて、学生と先生のやり取りしている記事が目につきました。

それによると、コロナウイルスは50種類以上見つかっていて、そのうち人に感染するコロナウイルスが6種類で、風邪に関するものが4種類、残りの2種類はかつて中東地域を中心に感染が報告され、症状が重くなり恐れられた「SARS:サーズ、MERS:マーズ」があります。昨年12月に人に感染する7種類目のコロナウイルスが中国の武漢で見つかった訳です。多くの専門家は、新型コロナウイルスはいずれ現れるかも知れないと思っていたけれども、こんなに大変なウイルスとして現れるとは思っていなかったのではないかと専門家の間では考えていたようです。

令和2年1月31日付けで厚生労働省主管部門(健康局、医薬・生活衛生局)から、武漢市からのチャーター便での帰国者に関する検査結果の報告がインターネット上であった。それによると「国民の皆様へのメッセージ」として「新型コロナウイルス感染症は我が国において、現在流行が認められている状況

ではありません。国民の皆様におかれては、風邪や季節性インフルエンザ対策と同様に、お一人お一人咳エチケットや手洗いなどの実施がとても重要です。感染症対策に努めて頂くようお願い致します」とのことであった。

その後の国や各自治体等の動きは、経済活動と新型コロナウイルス予防対策との綱の引き合いに終始しているといえる。特に世界中が待ち望んでいる新型コロナウイルスワクチンの開発については、急ぐあまりに安全性を度外視した開発競争になることが恐れられます。新型コロナウイルス問題で新たに生まれた言葉も数知れず、新たな生活様式が生まれている。3密、ソーシャルデスタンス、GOTOキャンペーン、トラベル、クラスター、〇〇アラート、ヒルカラ、ステイホーム等……。買い物でついすっかりマスク着用を忘れた時の肩身の狭い事と言ったら無い。

毎年行っていた故郷へのお盆の墓参りは見送り、懐かしい顔と会える社交場でもあるお寺は今年は我慢である。

新型コロナウイルスのワクチン開発の時期が見通せない現状においては、新しい生活様式に慣れ親しむことと自らがコロナに負けないことである。

新型コロナウイルス禍での 介護現場の今…

これまで「直接の対面」が前提だった授業や病気のお見舞い、面接試験などを「リモート」「遠隔」「オンライン」で行うようになった。

新型コロナウイルスの影響で、介護施設では家族による施設出入は禁止され、衣類など生活用品のやり取りも施設の入口で職員に渡すのみとなり、外部との接触を極力避けるという観点から訪問ボランティア・レクリエーション、家族の面会を原則的に控えるようになりました。

しかし入居者と家族双方の気持ちを配慮し、介護施設独自の判断でスマートフォンなどを用いて遠隔で面会を実施する施設が現れました。

まずは利用端末や時間等のルールを決めて、面会を希望する家族等は事前に施設へ連絡して面会日時を予約し、面会時間になったら、施設の職員が該当する入居者の部屋へ行きスマートフォン又はタブレットから家族のスマートフォン、タブレット又はパソコンへと接続します。

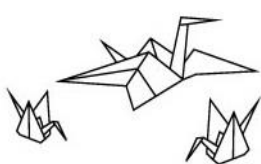
家族は、自分のスマートフォン、タブレット又はパソコンを持っている場合は自宅から、持っていない場合は施設へ来てもらい、エントランス等の待機場所で施設の機器を使い会話をするという形になります。

このようなオンライン面会のメリットは①表情や会話から現在の状態がお互いに分かること②施設の職員から聞く情報より、実際に話す情報の方が共有内容は確実であること③顔を見て面会することで、お互い安心できること④離れた家族とも複数参加で遠隔テレビ会話もできること⑤オンラインの活用をすることで、職員がやり方を学べ、将来的な施設のIT導入を進めるきっかけになる期待ができることなどが挙げられます。

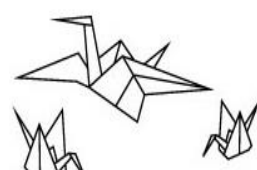
また、オンライン面会のデメリットとして①使用する機器について、職員の対応が必要になること②職員が機器類の操作や手順の理解、事前・事後の準備、片付け作業をしなければならないことなどが挙げられます。

課題として①機器類の操作を覚えること②ハード/ソフト両面の環境準備・付き添いや手順の説明などの対応で、現状でも忙しいのに職員の負担が増えてしまうこと挙げられます。

このような状況の中で、当会の主要事業である「情報の公表」調査・「外部評価」調査事業においてもリモート調査が行われています。



◆2020年度 第2回理事会



★令和2年7月29日(水)、仙台市生涯学習センターにおいて第2回理事会が開催されました。

主な審議事項、活動報告は次のとおり

審議事項

- 1、2020年度各調査活動費などの決定について
- 2、2020年度各調査活動の新型コロナウイルス感染拡大防止対策(案)について
 - ・新型コロナウイルス感染症対策を取り入れた暮らしを…
 - ・新型コロナウイルス感染症状等チェック表

報告事項

- 1、各事業項目進捗状況報告
 - ・地域支え合い活動
 - ・情報の公表
 - ・地域密着型サービス外部評価
 - ・福祉サービス第三者評価
 - ・みやぎ介護人材宣言認証制度第2段階
 - 他
- 2、広報、財政、組織、総務関係について
- 3、その他
(詳細については事務局備え付けの議事録を閲覧願います)

◆外部評価調査員緊急打ち合わせ

★前年度の未実施調査11件について、8月から調査開始することとなり、令和2年7月30日（木）、仙台市生涯学習センターにおいて緊急打ち合わせ会が開催されました。

- ・訪問調査を原則とするが事業所の事情により、リモートでの調査も実施する
- ・訪問調査実施に当たっては、事業所内でのラウンドは避けること、入居者と一緒の食事はしないこと、三密を避けることなど事業所側と充分検討の上実施する等の打合せが行われました。



◆2020年度第1回

地域密着型サービス外部評価フォローアップ研修

★8月からの令和2年度調査開始に向けてのフォローアップ研修が令和2年8月27日（木）、仙台市生涯学習センターにおいて開催されました。

- ・令和2年度改訂ガイドラインについて、
- ・平成31年度事業所アンケート結果(暫定版)について
- ・コロナ禍に伴う調査方法と調査時の対応についての研修が行われました。



◆2020年度第1回

情報の公表フォローアップ研修

★令和2年9月14日（月）、仙台市福祉プラザホールにおいて開催されました。

開催に先立ち宮城県保健福祉部長寿社会政策課課長補佐高田仁様（代読）、仙台市保険高齢部介護事業支援課高橋晶子様の挨拶の後「令和2年度情報の公表システム改修及び令和2年度調査」について説明が行われた後、令和2年度情報の公表新調査員の紹介があり、引き続き「令和2年度調査計画・調査方法について」「調査員マニュアルについて」「連絡事項」等について研修が行われました。



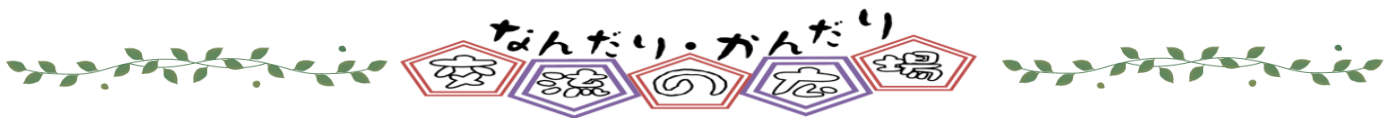
◆2020年度第1回

福祉サービス第三者評価調査者フォローアップ研修

★令和2年9月4日（金）、仙台市生涯学習センターにおいて開催されました。

- ・宮城県第三者評価事業推進委員会の報告、
- ・第三者評価調査の流れと評価調査の実施等について研修が行われました。





趣味の人形劇サークル

会員 嶺岸 とも子



趣味の人形劇サークルに入会したのは、子供が幼稚園に入園した時でした。クラスメイトのお母さん達から「一緒にやりませんか」と声をかけられ、興味があったのと、子供の喜ぶ顔が見たいとの思いから始めてみました。35年も前になります。

当初、練習場所は幼稚園の一室で、帰りは子供と一緒に帰宅するというサークル活動でしたので、何の苦もなくむしろ楽しみでした。

週一回の練習と打ち合わせ、そして公演の日と結構忙しかったけれど、私の何よりの楽しみとなり、今では生活の一部となってしまいました。演じる劇は、誰もが知っている「赤ずきん」等のグリム童話、「三匹のこぶた」他ロシア民話「がちょうの子」、「つるのおんがえし」、「うりこひめとあまんじゃく」等です。

色々な公演の中に思いで深い事がありました。健全者と自閉症等の子供達が半々で保育している園に依頼されて人形劇「あかずきん」を届けに行きました。ちゃんと見てもらえるか少し不安でしたが「赤ずきん」が始まると、落ち着きが無く歩き回っていた子

供達も目をキラキラ輝かせて一生懸命に見てくれました。子供達の笑顔に癒されてとても幸せな気持ちになりました。

視覚支援学校からの依頼を受けて30年を超え毎年公演に行っています。

先生たちの暖かい協力により、開演前に、人形劇を感じてもらうために子供達一人ひとりにお人形に触ってもらい、その人形の担当が声を出して話しかけます。これから始まる物語を楽しんでもらうためです。

先生達も子供達と一緒に楽しんで、くれて大きな拍手と笑顔を頂きました。後日、子供達の点字で書いた感想文が届きます。私たちの励みになっています。

公演に行く先々で、いつも言葉には言い表せない深い感動を覚え、また頑張ろうという元気をもらって来ます。これが長く続けている要因なのだと思います。

今、コロナ禍で活動は休止になり、少し寂しく過ごしております。一日も早くコロナ禍が落ち着き、子供達に人形劇をみてもらい、楽しんでいる笑顔に会いたいと願っております。

【編集後記】

高校生の孫がやって来て、リモート授業があるから「ZOOM」をセットアップしてくれと言う。

取取えず、そちらの方は済ませたものの気になって世の中を見渡して見たら、リモートワーク、リモート出演、オンライン飲み会、オンライン墓参り、介護現場でのリモート面会、ビデオ会議と新型コロナ対策の密集・密閉・密接の三密を避ける取組みのオンパレードである。

確かに、マスク着用、うがい・手洗い、ソーシャルディスタンスの確保、不要不急の外出抑制など自己責任の範囲拡大と強制にも最近はおまり抵抗感がなく、不本意ではあるがしつかり馴染んでしまったような気がする。これが With コロナのニューノーマルなのだろうか？

ニューレターの編集もニューノーマル時代に合わせて、ビデオ会議で行ってはと思っっている今日この頃である。(かおひら)

◆◆よろず相談会のご案内◆◆

法律、成年後見関係の分野に限らず、会員やその家族、知人の方がお持ちの生活全般に関わる「困りごと」「悩みごと」などなんでも相談会です

2020年(令和2年)10月から1月までの開催日程は下記のとおりです。

☆開催日程

- ・10月20日(火)相談役 武田貴志弁護士
- ・11月13日(金)相談役 安田廣治司法書士
- ・12月 7日(月)相談役 武田貴志弁護士
- ・ 1月22日(金)相談役 安田廣治司法書士



特定非営利活動法人
介護の社会化を進める
一万人市民委員会宮城県民の会

編集委員 荒井 勝子 柏倉 勝 兼平 幸雄 工藤 俊廣
曾根 務 出口 香 前田 泰子